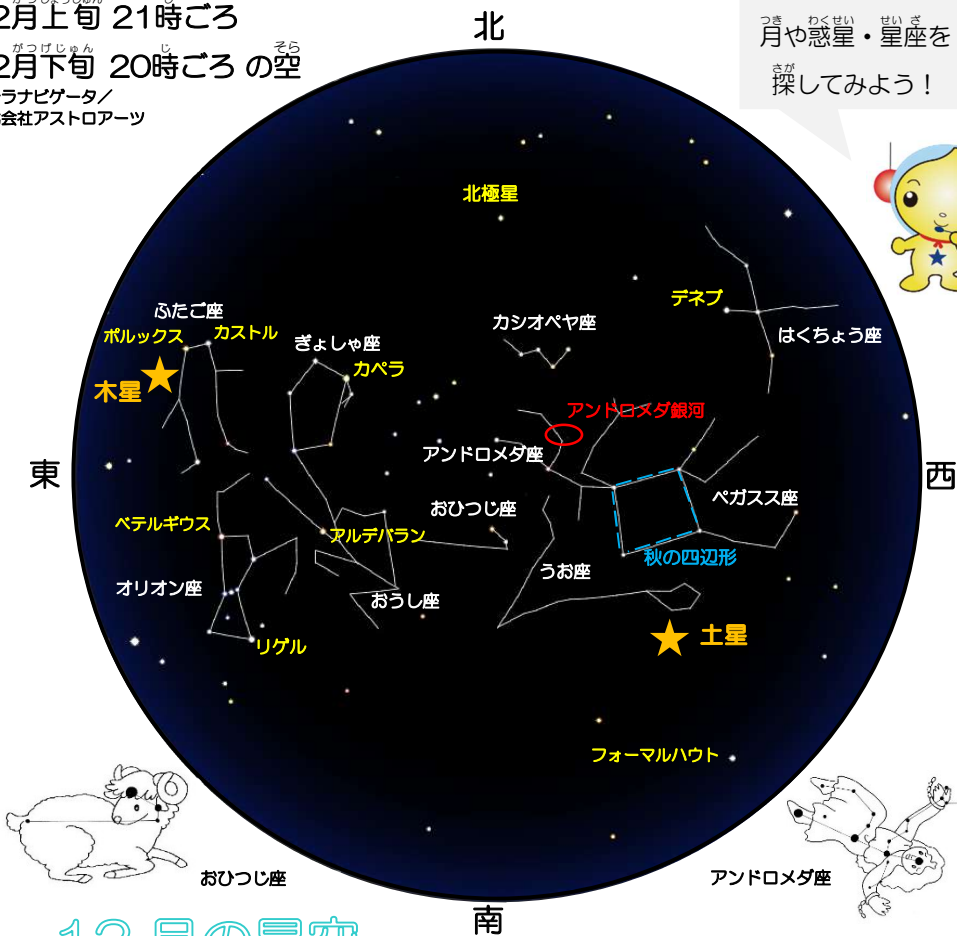


月刊 星空の散歩道 2025年 12月号

12月上旬 21時ごろ
12月下旬 20時ごろの空
ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ



つきや惑星・星座を
さがしてみよう！

☆天文トピック☆

12月14日 ふたご座流星群が極大
三大流星群のひとつ。ピークは14日17時頃と予想されています。観察には14日夜～15日明け方がおすすめです。空が開けたところで、暖かい服装で観察しましょう。

12月22日 冬至
北半球では1年で最も昼間の時間が短くなります。

☆月の形の変化☆

12月 5日	満月	○
12月 12日	下弦	◐
12月 20日	新月	●
12月 28日	上弦	◑

☆12月の惑星☆

土星…日没後、南の空
木星…真夜中、南東の空

<天文コラム> アンドロメダ銀河が広げた宇宙のスケール

秋の星座のアンドロメダ座には、M31 という天体があります。今から100年程前までは、M31 は天の川銀河の中にある天体なのか、はっきりとわかっていませんでした。

アメリカの天文学者エドウィン・ハッブルは、このM31を望遠鏡で詳しく観察し、その距離が地球から約90万光年（※注）離れているという観測結果を得ました。これは、天の川銀河のサイズを大きく超えるものでした。やがて、M31は天の川銀河の外にある4千億個もの星が集まったお隣の「銀河」とであると判明し、アンドロメダ銀河と呼ばれるようになりました。



M31・アンドロメダ銀河
(当館職員撮影)

M31が天の川銀河の外にあることの発見から、私たちの知る宇宙の規模は大きく広がりました。その後、観測技術の進歩によって、さらに遠くの銀河が発見され、宇宙のスケールはさらに広がっています。現在では、宇宙には天の川銀河以外に約2兆個もの銀河があると考えられています。（※注）現在では、250万光年

12月の星空

☆夜空の主な星座と明るい星☆

西の空に秋の星座が見え、東の空に冬の星座が見える。

- < 西 > はくちょう座（デネブ）、ペガスス座
- < 天頂 > アンドロメダ座、おひつじ座（アルデバラン）
- < 東 > ぎょしゃ座（カペラ）、ふたご座（カストル、ポルクス）、オリオン座（ベテルギウス、リゲル）
- < 北 > 北極星、カシオペア座

